

水循環勉強会の開催結果について

1 開催概要

(1) 開催日時

2023 年 2 月 8 日 (水) 13 時 30 分から 15 時 30 分まで

(2) 開催場所

猪高緑地、森の集会所

(3) 講師

名東自然倶楽部 高木会長

(4) 参加者

尾張・西三河・東三河地域水循環再生協議会 構成員 10 名

2 猪高緑地について

市街化が進む中で残された貴重な雑木林であり、計画面積は 66ha と広大です。起伏に富み、ため池が点在し、小動物が多く生息しています。雑木林の四季の変化を楽しむことができます。



(出典) 名古屋市 HP

3 開催状況について

猪高緑地の保全活動を行う名東自然倶楽部の高木会長に、猪高緑地を巡る取組について、現地で解説いただきました。

まずは、名東自然倶楽部について、名古屋市と協働し、緑地をフィールドとする里山保全、棚田の復元や自然観察等、目的別に9つのグループ活動が実施されていることが紹介されました。

緑地内には、名古屋市のレッドリストで絶滅危惧ⅠA種に指定されるニホンアカガエルが生息している等、生物保全上重要な種が多く見られ、ため池を中心とした重要な生態系が存在しています。

名東自然倶楽部では、様々な活動を通じて緑地の保全に取り組んでいますが、抱えている課題についても説明がありました。ため池は放置すると周囲の植物や土砂が堆積していき、次第に埋まっていくため、維持するには内部の浚渫等の作業が欠かせません。ボランティア活動だけでは、全てのため池を維持管理することは難しいとのことでした。

また、緑地内には至るところに竹が侵入し、森林が侵食されていました。竹の生長は早いため、これ以上侵食されないようできる限りの範囲で伐採するのが精いっぱいとのことでした。伐採した竹は、一部をチップに加工し敷地内の道に敷く等、活用を試みているとのことでした。

コロナ禍の影響もあり、緑地を散歩する人が増えたそうですが、散策路の土の侵食が早まる等、人が立ち入ることによる弊害もあります。利用者の増加は喜ばしいことである一方、貴重な種が持ち去られたり、特定外来種であるカダヤシがため池に勝手に放たれたり、課題も生まれているとのことでした。

参加者からは、以下の感想が聞かれました。

- ・水だけでなく、生き物等、緑地を構成する様々なもののバランスが重要だと感じた。
- ・小さな地域での水循環の流れが勉強できた。
- ・手間とお金がかかる緑地管理について、ボランティアまかせでは継続できないため、行政の関わり方を考えなければならない。
- ・緑地管理にあたっては地元の理解が必要であり、そのためには保全活動のPRが重要であると感じた。
- ・今回教えてもらったことを参考にしながら、自治体で管理する公園等でも保全活動や啓発事業を企画してみたい。

猪高緑地での勉強会の様子



①緑地内の森の集会所から、現地見学がスタートしました。



②講師の名東自然倶楽部高木会長から解説を受けました。



③緑地内で最も大きなため池である「^{つめ}いの
杓池」。



④名古屋市により水循環に関する解説の看板が設置されています。



⑤外来種のカダヤシが移入されてしまったため池。



⑥湿地のエリアでは、遊歩道が整備されています。